

**一般社団法人全国消防機器協会 会長
板倉構成員 代理 飯塚様からの提出資料**

National Fire Equipment Society



消防機器等の適正な品質の確保に努めています。

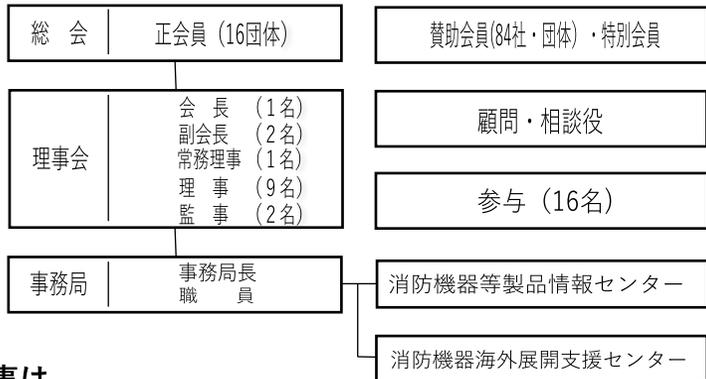
全国消防機器協会について

全国消防機器協会は、昭和37年7月6日に「会員である団体が行う事業を促進するために、必要な連絡及び協調を図ること」を目的として結成された任意団体の「全国消防機器懇話会」を母体としています。

その後、消防用機械器具等の国家検定制度の確立等に伴い、同懇話会の組織の運営の強化、事業拡充、公益法人化への機運が高まり、昭和41年3月15日に「社団法人全国消防機器協会」として設立されました。

さらに、平成24年3月21日、内閣府より一般社団法人への移行が認可され、平成24年4月1日に「一般社団法人全国消防機器協会」となっています。

組織



私たちの仕事は

『消防機器業』です

消防機器製造業 消防機器工事業 消防機器販売業 消防機器保守業

全国消防機器協会傘下会員団体・企業は、自主的な取り組みとして「消防機器業」と称することとしています。

「消防機器業」とは、全国消防機器協会傘下会員団体・企業が行っている消防機器の製造、工事、販売及び保守に係る業務の総称です。

「消防機器」とは、消防機器その他消防に関する物品を言います。

業務

消防機器等の普及・改良を図るとともに、防災思想の普及徹底に努め、もって火災その他の災害による被害の軽減に寄与することを目的とし、次の事業を行っています。

- 消防機器等の技術開発、普及、改良の推進並びに消防機器業界の健全な発展等の確立に対する協力
- 関係官公庁及び関係団体との協力
- 消防機器等に関係する業界の連絡調整
- 消防機器等に関係する業界における企業の合理化に関する調査研究
- 研究会、講演会、講習会及び展示会等の開催
- 防災思考の普及宣伝
- 機関誌、関係図書及び資料の刊行頒布
- 高齢者等の災害時要援護者への消防機器等の提供、地震等の災害被害者への消防機器の提供、義援金等の募集。提供等の社会貢献事業
- 上記事業に顕著な功績のあった者に対する表彰並びに官公庁等による表彰、褒章及び叙勲の上申事業
- その他この法人の目的を達成するために必要な事業

消防機器等製品情報センター(平成24年10月1日設置)

全国消防機器協会では、消防機器等の品質を確保するための制度(検定・自主表示制度等)について、消防機器等を製造・販売する者、輸入をする者、工事・整備等に携わる者、試験・検査等に携わる者等が、検定・自主表示制度等の趣旨、内容等を十分に理解していただくことが、消防機器等の品質を確保する上で不可欠であると考えています。

このため、消防機器等製品情報センターを設置し、主として製造・販売等に携わっている当機器協会の会員団体・企業等の関係者等を対象に、検定・自主表示制度等に関する資料、パンフレット等の作成・配付、さらには、研修会、講習会等を通じ、継続的に、かつ、きめ細かに情報提供を行っております。



消防機器海外展開支援センター(令和2年4月1日設置)

全国消防機器協会は、国・消防庁が行う消防機器の海外展開に係る政策等に協力するとともに、機器協会の会員団体・企業の行う海外展開に関する事業に資する対象国の市場状況、基準認証制度の状況、手続き等の情報の収集・提供を行うなど、日本の消防機器の海外展開に資する業務を行うために、機器協会内に「消防機器海外展開支援センター」を設置しています。

現在、特別会員9社及び正会員14社の23社で構成されています。

また、日本の消防機器・企業等を紹介するパンフレットの作成・配付、ベトナム国に対する予防技術研修支援事業への推進、ベトナム国等での防災展出版等の支援、国際消防防災フォーラム等への支援などの業務を行うこととしています。

正会員

一般社団法人 日本火災報知機工業会
 一般社団法人 日本消防放水器具工業会
 公益財団法人 日本防災協会
 一般社団法人 日本照明工業会

一般社団法人 日本消火器工業会
 一般社団法人 全国避難設備工業会
 一般社団法人 日本消防標識工業会
 ガス警報器工業会

一般社団法人 日本消火装置工業会
 一般社団法人 日本消防ホース工業会
 一般社団法人 日本消防服装・装備協会
 一般社団法人 インターホン工業会

一般社団法人 日本消防ポンプ協会
 一般社団法人 全国消防機器販売業協会
 一般社団法人 日本内燃力発電設備協会
 一般社団法人 全国設備業DX推進会

はじめに

(日本火災報知機工業会)

◆ 現在の取り組み

VR、通話アプリ、クラウドサービス等の活用

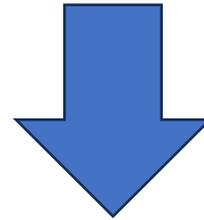
導入事例（別添参考資料）

- 1 VRによる火災シミュレーション (NO)
- 2 防災クラウドサービス：HOCHIKI as a Service (HO)
- 3 屋内位置情報サービス：B Catch Now (NK)
- 4 IoTつながる住警器（住宅設備連携） (PA)

◆ 検討段階

ドローン、カメラ、サーモセンサー、AI等の技術の導入

これらの技術を、自動火災報知設備にも積極的に取り入れることにより、



利便性や安全性の向上、さらには消防機器業界の課題である人手不足問題に対して有効な手段となりうると考える

新技術の導入の方向性について

応用性、発展性の観点から考えると、自動火災報知設備のインターネット接続 及び そのネット環境を活用したシステム構築した場合は、次のことが期待できる

(1) 火災受信機のリモート制御

消防点検時、施工時に火災受信機の操作を遠隔で行うことにより、現場での作業効率が上がり、人手不足問題に対して改善が図れる

(2) 火災受信機の遠隔アップデート

火災受信機の機能アップ、データの更新などを遠隔地から行うことができ、最新の機能へのアップデートがスムーズに行える

(3) 自動火災報知設備の常時システム監視

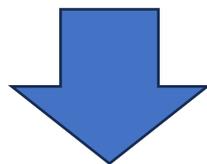
自動火災報知設備の状況について、遠隔地からの診断を行うことができ、システムの故障を未然に予測するなど予防保全、ダウンタイムの最小限化に期待できる

また、個々の案件のプライバシーに配慮したうえで接続されている機器の環境データ等を収集することにより、地域や建物用途などによる特性分析をシステム改善に活用し、システムの安全性・利便性の更なる向上が期待できる

課題

技術的課題・運用上の課題・コストなどあるが・・・

現行法令では消防用設備等のインターネット接続などは想定されていない



ルールの明確化

新技術の導入には、消防用設備等の性質上、慎重にならざるを得ないが、**新技術の導入を積極的に進めていくためには、現行法令等のアップデートも速やかに、かつ、柔軟に行うこと や 研究・開発を含め、製造、販売等における段階での支援 など重要と考える**

Appendix

VRによる火災シミュレーション(N0)

- VRでのリアルな災害体験で
- 防災訓練・防災教育の意欲向上
- 高い没入感で“忘れられない災害の恐怖体験”
VRキットレンタルサービス
- 「火災臨場体験VR～混乱のオフィス～」
- 「地震・津波臨場体験VR～命をつなぐ選択～」



(出典：能美防災株式会社)

POINT 01

仮想空間内のリアルな災害体験により、
防災訓練・防災教育に対する意欲が向上

細部まで作り込んだ仮想空間と徹底した災害事象の描写に加え、リアルに動きながら様々なセリフを発する人が多数登場して、災害による混乱状態を演出。体験者に危機感を醸成します。

POINT 02

集客につながるVRによる災害体験が
お客様のもとで実施可能

起震車や煙ハウス等、定番の防災コンテンツが並ぶ中、注目を集めるVRによる災害体験に必要なキットを、ネット注文でレンタル提供。2022年4月のサービス開始からこれまでに、7,000人以上が体験しています。

POINT 03

VR体験から学びを獲得し、
実際の災害に対する備えにつなげる工夫

「火災臨場体験VR」では、ご注文いただいたお客様に「振り返り資料」を提供し、各シーンでの学びのポイントを確認いただきます。

「地震・津波臨場体験VR」では、必要な行動の実践可否を問われながらストーリーが展開。体験終了後にはプレイヤーの防災力レベルが判定され、防災訓練や防災教育の意欲を高める仕掛けを盛り込んでいます。

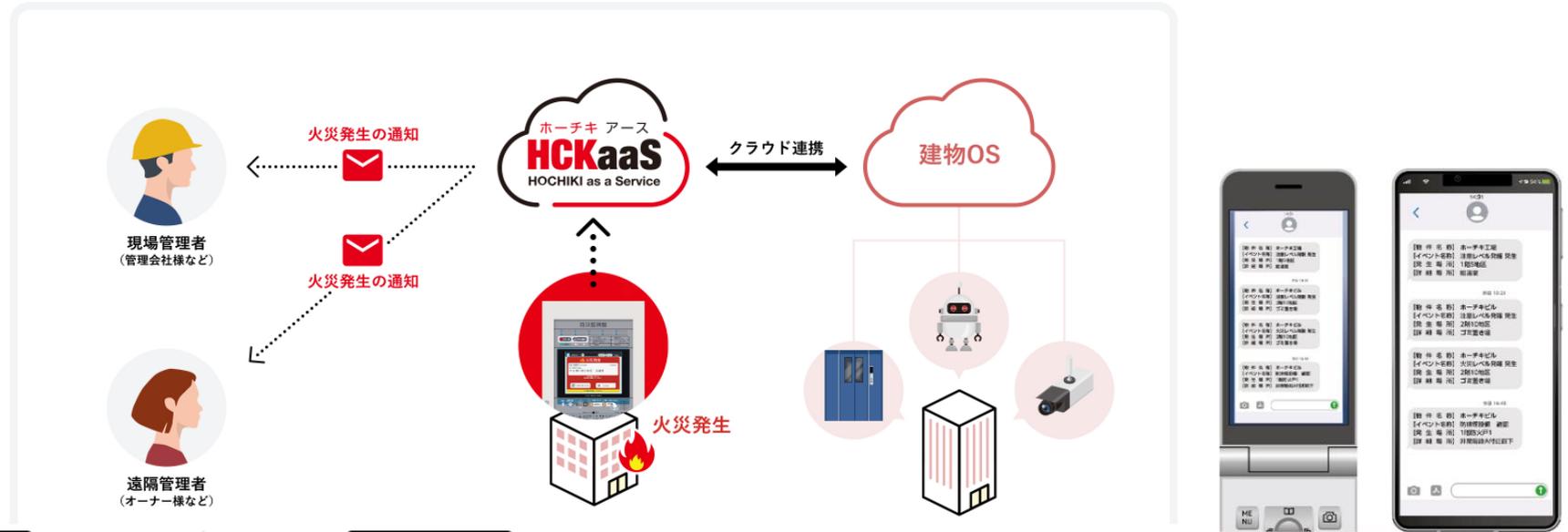
防災クラウドサービス：HOCHIKI as a Service (H0)

火災の発生をSMS・メールで速やかに通知。
災害対応への迅速な初動を叶える防災クラウドサービスです。

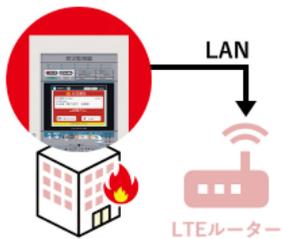
ホーチキ アース HCKaaS HOCHIKI as a Service 防災クラウドサービス

いつでも、どこでも、火災情報が即座に「わかる」

クラウド連携により、火災報知をもっと身近に



ローカルネットワーク



火災が発生。回線事業者閉域網 (LTE/5G) 経由で火災情報を送る

※ 受信機を含む製品情報は [こちら](#)

クラウド



火災情報をHCKaaSに集約。セキュリティレベルが高いSSL暗号化通信を使用

HCKaaSの機能

SMS機能 VOYT CONNECT 連携 (オプション機能) VOYT	Eメール機能 FASTALERT 連携 (オプション機能) JX通信社
---	--

API経由で各種HCKaaSの機能が利用可能

SMS (ショートメッセージ) 機能

開封率が高い「文字」によるSMS (ショートメッセージ) で、火災情報を通知する機能です。

※ SMS通知の上限：受信数10名

- アプリは不要。設定に必要なものは電話番号のみ。
- スマホに加え、ガラケーにも対応。

活用シーン 事務所 / 倉庫 / 工場 / 複合施設 / 同一敷地内複数建屋 (大学・工場・病院等)

屋内位置情報サービス : B Catch Now (NK)

- ・ 業務効率向上 ・
- ・ 火災時の初動支援に！

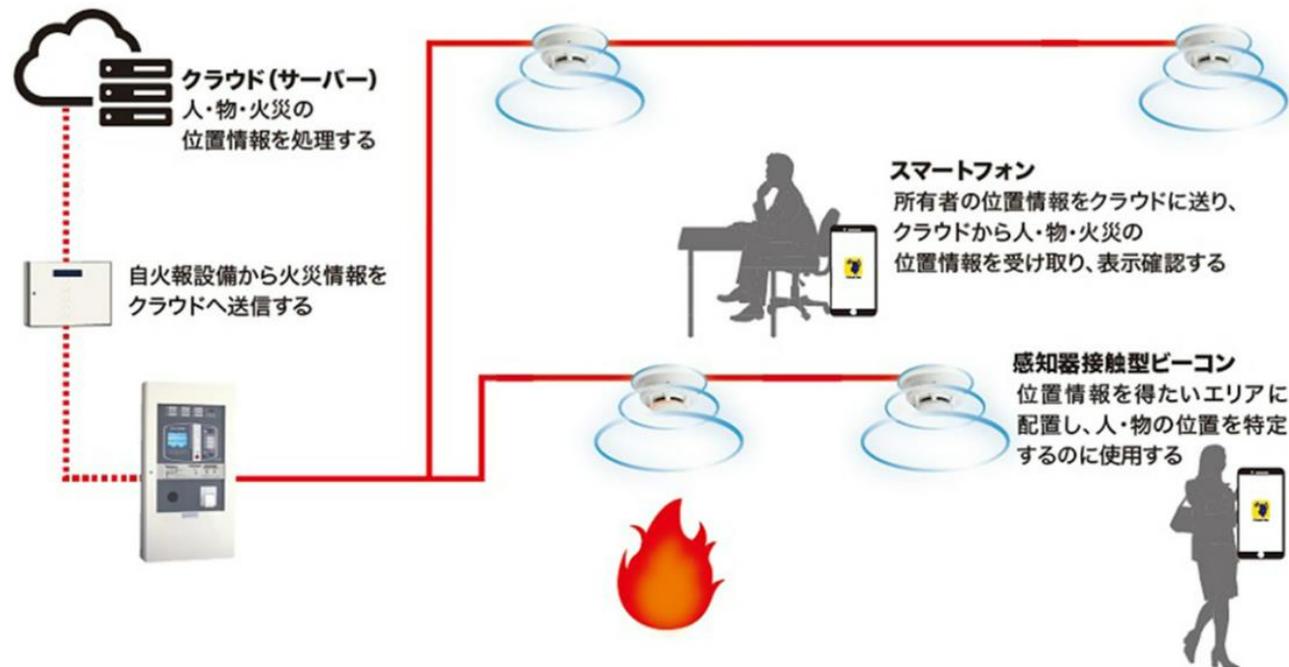
Point1 位置情報で業務効率向上！

<p>今どこ？ フリーアドレスオフィスで便利！</p> <p>在席状況を確認</p>  <p>連絡を取りたい社員が施設内のどの辺りにいるのかいつでも確認できます。</p>	<p>え、その会議室 本当は空いてる…？</p> <p>会議室の運営を改善</p>  <p>予定された会議室が使用されているか確認できます。</p>	<p>行動データの見える化</p> <p>業務の改善</p>  <p>スタッフの動線やエリア滞在時間を見る化できます。</p>
---	--	--

Point2 防災×位置情報で初動対応を支援！

<p>火災状況の把握</p> <p>▼火災発生場所を表示</p>  <p>・火災発生場所 ・従業員の位置 ・防災センターへ状況報告</p>	<p>初期消火と避難を支援</p>  <p>火災発生位置と設備位置</p> <p>・消火器・消火栓の位置表示 ・「避難口」アイコン表示</p>	<p>避難遅れの確認</p> <p>▼避難遅れの確認</p>  <p>・在館者リストで避難状況の確認 ・消防隊への情報提供</p>
---	---	--

システムの構成図



(出典：ニッタン株式会社)

IoTつながる住警器 (住宅設備連携) (PA)

火元をお知らせするIoT対応住宅用火災警報器

<特長>

- 1 業界初 (※1) 火災検知時、火元をお知らせする機能を搭載
- 2 当社製HEMS、照明スイッチとの連携により、火災時に照明一括点灯し避難をサポート
- 3 当社製HEMSとスマートフォンに、故障、電池切れなどメンテナンス情報を通知

【その他特長】

当社製HEMS「AiSEG2」で設定した部屋名を表示できます (※4)。「AiSEG2」で自由に登録できるので、「AiSEG2」、スマートフォン画面に火元を固有名詞でお知らせすることができます。

(出典：パナソニック株式会社)

